

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和4年7月～9月期）

《全業種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年7～9月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				前期(令和4年4～6月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				今期(令和4年7～9月)と比べた 来期(令和4年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	40.0	23.3	36.7	3.3	28.3	33.3	38.3	△ 10.0	49.2	33.9	16.9	32.2
2 採算	20.3	42.4	37.3	△ 16.9	13.3	40.0	46.7	△ 33.3	32.8	43.1	24.1	8.6
3 仕入単価	72.9	25.4	1.7	71.2	63.3	35.0	1.7	61.7	67.2	31.0	1.7	65.5
4 従業員数					5.3	89.5	5.3	0.0	7.1	92.9	0.0	7.1
5 資金繰り					0.0	59.6	40.4	△ 40.4	12.5	66.1	21.4	△ 8.9

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		17.2	39.7	43.1		-25.9		29.3	32.8		37.9	-8.6		1.7

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	36.1	14.8	4.9	55.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	3.3	13.1	9.8	26.2
2 大企業進出による競争激化	0.0	6.6	4.9	11.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	1.6	1.6
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	1.6	6.6	1.6	9.8
4 原材料高及び不足	37.7	19.7	8.2	65.6	11 需要の停滞	3.3	11.5	9.8	24.6
5 在庫製品・商品の過剰	1.6	0.0	0.0	1.6	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	3.3	11.5	14.8
6 人手不足	8.2	4.9	11.5	24.6	13 その他	3.3	3.3	0.0	6.6
7 人件費の増加	1.6	4.9	8.2	14.8	無回答	3.3	11.5	27.9	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

《製造業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和3年7～9月）と比べた 今期（令和4年7～9月）の状況				前期（令和4年4～6月）と比べた 今期（令和4年7～9月）の状況				今期（令和4年7～9月）と比べた 来期（令和4年10～12月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	62.5	12.5	25.0	37.5	37.5	12.5	50.0	△ 12.5	71.4	28.6	0.0	71.4
2 採算	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	△ 25.0	50.0	33.3	16.7	33.3
3 仕入単価	87.5	12.5	0.0	87.5	62.5	25.0	12.5	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	87.5	12.5	△ 12.5	14.3	85.7	0.0	14.3
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	50.0	50.0	△ 50.0	33.3	50.0	16.7	16.7

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		25.0	25.0	50.0		△ 25.0		25.0	12.5		62.5	△ 37.5		12.5

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	37.5	12.5	0.0	50.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	25.0	25.0	50.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	12.5	0.0	12.5
4 原材料高及び不足	62.5	37.5	0.0	100.0	11 需要の停滞	0.0	0.0	25.0	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	12.5	12.5
6 人手不足	0.0	12.5	12.5	25.0	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	12.5	12.5	無回答	0.0	0.0	12.5	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 材料費等の値上がりによる経費圧迫。印刷物需要の減少。今後は、紙代、材料費等の影響を受けにくいデジタルコンテンツ制作・サービス提供に注力。
- ・ 物価が高くなっている。
 - ・ 売上は多少回復。飲食店の売上は3年前の80%程度で頭打ちと想定し、作業時間の短縮に務める。
- ・ 原材料高が続くが、値上げできない。
 - ・ 原料の変更、粗利の良い新製品の開発。
- ・ 原材料、電気代、全てのものが値上がり。
 - ・ 物価上昇による仕入・経費増による採算への影響を注視。

《建設業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年7～9月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				前期(令和4年4～6月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				今期(令和4年7～9月)と比べた 来期(令和4年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	62.5	0.0	37.5	25.0	37.5	25.0	37.5	0.0	25.0	37.5	37.5	△ 12.5
2 採算	37.5	12.5	50.0	△ 12.5	12.5	50.0	37.5	△ 25.0	25.0	37.5	37.5	△ 12.5
3 仕入単価	87.5	12.5	0.0	87.5	62.5	37.5	0.0	62.5	75.0	25.0	0.0	75.0
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	87.5	12.5	△ 12.5	0.0	87.5	12.5	△ 12.5

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		37.5	37.5	25.0		12.5		75.0	25.0		0.0	75.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	25.0	0.0	12.5	37.5	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	12.5	0.0	12.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	25.0	25.0	12.5	62.5	11 需要の停滞	12.5	12.5	0.0	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	12.5	12.5
6 人手不足	37.5	12.5	25.0	75.0	13 その他	0.0	12.5	0.0	12.5
7 人件費の増加	0.0	12.5	12.5	25.0	無回答	0.0	12.5	25.0	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・職人不足、材料値上がりによる受注機会損失を懸念。
 - ・社員の高齢化による人材不足。
 - ・瓦以外の屋根材（金属系）の流行。
 - ・元請工事受注拡大。
 - ・FTTH工事（光ケーブル配線工事）は近県需要はしばらく見込めるが、県内工事は減少傾向。電気工事業は若干の不況感。
- ・コロナの直接的な影響は少ない。
 - ・物価高騰、品不足は深刻な問題。この問題を考慮した設計が重要。
 - ・物価上昇に対し、労務費の公共単価は上がらない。
 - ・値上げ等の必要性を説明し、お客様に納得いただくことが重要。

《卸 ・ 小 売 業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年7～9月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				前期(令和4年4～6月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				今期(令和4年7～9月)と比べた 来期(令和4年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	22.2	27.8	50.0	△ 27.8	33.3	27.8	38.9	△ 5.6	38.9	38.9	22.2	16.7
2 採算	11.1	50.0	38.9	△ 27.8	5.6	50.0	44.4	△ 38.9	22.2	50.0	27.8	△ 5.6
3 仕入単価	61.1	33.3	5.6	55.6	55.6	44.4	0.0	55.6	61.1	38.9	0.0	61.1
4 従業員数					5.6	83.3	11.1	△ 5.6	11.1	88.9	0.0	11.1
5 資金繰り					0.0	66.7	33.3	△ 33.3	5.6	72.2	22.2	△ 16.7

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		5.9	47.1	47.1		-41.2		11.8	47.1		41.2	-29.4		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	42.1	21.1	5.3	68.4	8 設備店舗の狭小・老朽化	5.3	10.5	5.3	21.1
2 大企業進出による競争激化	0.0	5.3	5.3	10.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	5.3	5.3	10.5
4 原材料高及び不足	26.3	26.3	5.3	57.9	11 需要の停滞	5.3	10.5	10.5	26.3
5 在庫製品・商品の過剰	5.3	0.0	0.0	5.3	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	10.5	10.5
6 人手不足	5.3	0.0	15.8	21.1	13 その他	5.3	5.3	0.0	10.5
7 人件費の増加	0.0	5.3	15.8	21.1	無回答	5.3	10.5	21.1	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ オーダーユニフォーム事業が拡大。一方、仕入商品は15～30%値上がり。予算交渉が難しくなっている。価値ある商品提案と商品開拓が必須。
- ・ 物価上昇で売上も上昇するも、仕入コスト・エネルギーコスト上昇で利益を圧迫。コロナ資金の返済も始まり、今後の資金繰りに不安。
- ・ 値上がりによる一時的な需要増の反動による、不景気感からの買い控え。
- ・ 価格の推移に留意し、適切に対処することが必要。
- ・ 取扱商品の需要減少に伴う、取扱商品の見直し。
- ・ 夏物の切り上げが早く少し在庫が残った。秋物は動きが遅く在庫調整が必要。
- ・ 贈答品の売上が以前より40%程度減少。
- ・ 新聞業界として仕入部数の見直しの必要がある。
- ・ 仕入価格上昇に伴い、服小売業界ではどこも値上げしていく方向。
- ・ コロナも落ち着き、DM等でお客様を呼ぶ機会を増やしたい。
- ・ メーカーの欠品で販売できなくなっている商品がある。
- ・ ある時計メーカーは6月1日より330品目、更に11月1日より255品目値上げ。今後他メーカーも続く。
- ・ 価格上昇と入荷に遅れ。
- ・ 売れ筋商品が入ってこない。
- ・ 最低賃金上昇で経費負担増。
- ・ コロナの影響が落ち着き、高齢者の来店増。
- ・ 先行き不透明感による消費マインドの低迷。

《サービス業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況 (%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年7～9月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				前期(令和4年4～6月)と比べた 今期(令和4年7～9月)の状況				今期(令和4年7～9月)と比べた 来期(令和4年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	42.9	35.7	21.4	21.4	28.6	50.0	21.4	7.1	50.0	42.9	7.1	42.9
2 採算	35.7	50.0	14.3	21.4	28.6	50.0	21.4	7.1	50.0	42.9	7.1	42.9
3 仕入単価	57.1	42.9	0.0	57.1	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	42.9	7.1	42.9
4 従業員数					7.7	92.3	0.0	7.7	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り					0.0	53.8	46.2	△ 46.2	21.4	64.3	14.3	7.1

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況 (%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		21.4	50.0	28.6		-7.1		42.9	28.6		28.6	14.3		0.0

2、経営上の問題点 (%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	42.9	0.0	0.0	42.9	8 設備店舗の狭小・老朽化	7.1	14.3	7.1	28.6
2 大企業進出による競争激化	0.0	14.3	7.1	21.4	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	7.1	7.1
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	7.1	7.1	0.0	14.3
4 原材料高及び不足	14.3	7.1	7.1	28.6	11 需要の停滞	0.0	14.3	7.1	21.4
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	14.3	14.3
6 人手不足	7.1	7.1	7.1	21.4	13 その他	7.1	0.0	0.0	7.1
7 人件費の増加	7.1	7.1	0.0	14.3	無回答	7.1	28.6	42.9	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・介護福祉関係の商品は補助金もなくなったことで動かない。10月から仕入価格値上がり。
 - ・星野リゾートをはじめ、市内のホテル数増加。貸切タイプの宿泊施設も増加し、競争激化。
 - ・海外からの旅行客増加に期待。 ・仕入価格上昇するも、価格転嫁は難しい。
 - ・売上の安定的な確保が難しいことから、小人数体制での運営に務める。
- ・コロナ禍の生活に慣れ、感染者数が減少しても需要が戻らない。
 - ・円安の影響を受け商品価格が最大60%増加。価格高騰で需要減少し、売上減。
 - ・仕入先の変更や相見積もりなどによる仕入の見直し。
 - ・パート・アルバイトの確保が難しい。 ・美容系商材10月から値上がり。

《 飲 食 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年7~9月)と比べた 今期(令和4年7~9月)の状況				前期(令和4年4~6月)と比べた 今期(令和4年7~9月)の状況				今期(令和4年7~9月)と比べた 来期(令和4年10~12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	33.3	25.0	41.7	△ 8.3	8.3	41.7	50.0	△ 41.7	66.7	16.7	16.7	50.0
2 採算	0.0	36.4	63.6	△ 63.6	0.0	16.7	83.3	△ 83.3	25.0	41.7	33.3	△ 8.3
3 仕入単価	90.9	9.1	0.0	90.9	91.7	8.3	0.0	91.7	100.0	0.0	0.0	100.0
4 従業員数					10.0	90.0	0.0	10.0	10.0	90.0	0.0	10.0
5 資金繰り					0.0	40.0	60.0	△ 60.0	10.0	50.0	40.0	△ 30.0

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		9.1	27.3	63.6		-54.5		9.1	36.4		54.5	-45.5		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	25.0	33.3	8.3	66.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	16.7	16.7	33.3
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	8.3	8.3	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	8.3	0.0	8.3
4 原材料高及び不足	75.0	8.3	16.7	100.0	11 需要の停滞	0.0	16.7	8.3	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	16.7	8.3	25.0
6 人手不足	0.0	0.0	0.0	0.0	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	0.0	0.0	33.3	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 材料費、光熱費の値上がりに伴う、値上げのタイミングが難しい。
 - ・ 2次会の減少に伴う、長時間滞在で回転率悪化。加えて、飲酒客の減少。
 - ・ コロナが落ち着き、人出は増加。
 - ・ コロナが落ち着いても、景気悪化に不安。
- ・ 値上がり・賃上げなどの問題に対し、単純な値上げだけではない各種見直しが必要。
 - ・ 物価高騰するも値上げはせず、客数増加に努める。
 - ・ コロナは落ち着いたように見えるが、毎日のように飲みに出ていたお客様は出てこないまま。
 - ・ すでに不景気。好況になるまで耐える。
 - ・ 今後の感染者数増加、各種値上がりに不安。